

大福寺所蔵「瑞夢記」翻刻（上）

辻 浩和

キーワード・鎌倉時代 説話集 縁起 靈験記 弁才天

要旨

大福寺所蔵「瑞夢記」は鎌倉後期に編纂された大和国箸尾弁才天の靈験記である。原本調査に基づき上巻の翻刻を試みる。

解題

「瑞夢記」は、満嶋山大福寺（奈良県北葛城郡広陵町大字の場）が所蔵する、鎌倉時代後期の説話集である。内容は、大和国箸尾弁才天（現・櫛玉比女命神社、奈良県北葛城郡広陵町大字弁財天）に関する靈験記であり、社僧や勧進聖、巫女などの神社構成員、また箸尾周辺の氏人や在地刀祢、男巫、遊女など、地域住人に関する情報を多く含んでいる。

本書は既に全文が『広陵町史』史料編上巻（二〇〇〇）に

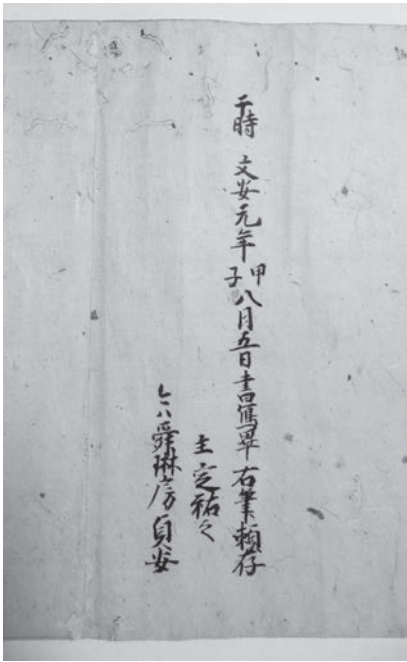
翻刻されているが、誤刻が散見されるため、今回原本調査に基づいて新たに翻刻を試みる。紙幅の関係で今回は上巻（四六紙）までとし、中巻・下巻は次号掲載を期する。なお、本書の書誌や内容については別稿で詳しく論じたのでそちらを参照していただくこととして、¹ここでは要点のみの解説にとどめる。

本書は全一一七紙からなる卷子装だが、もともとは袋綴の冊子本だったものを改装した形跡がある。箱書から、万治二年（一六五九）に改装された可能性が高い（写真1参照）。現在の装丁は昭和の補修時に施したものとされ、題箋がつくが、外題・内題は書かれない。書写奥書「于時 文安元年_{子甲}八月五日書写畢 右筆頼存／主定祐之／今ハ舜琳房貞安」によって、文安元年（一四四四）の写本と知られる（写真2参照）。巻頭付記・目次・本文・書写奥書はいずれも同筆。ただし傍訓の一部や頭書・付箋などに一部異筆を含んでいる。

写真1 箱書（箱底）



写真2 書写奥書



本書は上中下巻からなる。上巻は前欠だが、巻頭に応永二九年（一四二二）の付記があることから（写真3参照）、書写時には既に前欠になっていたものと認められる。

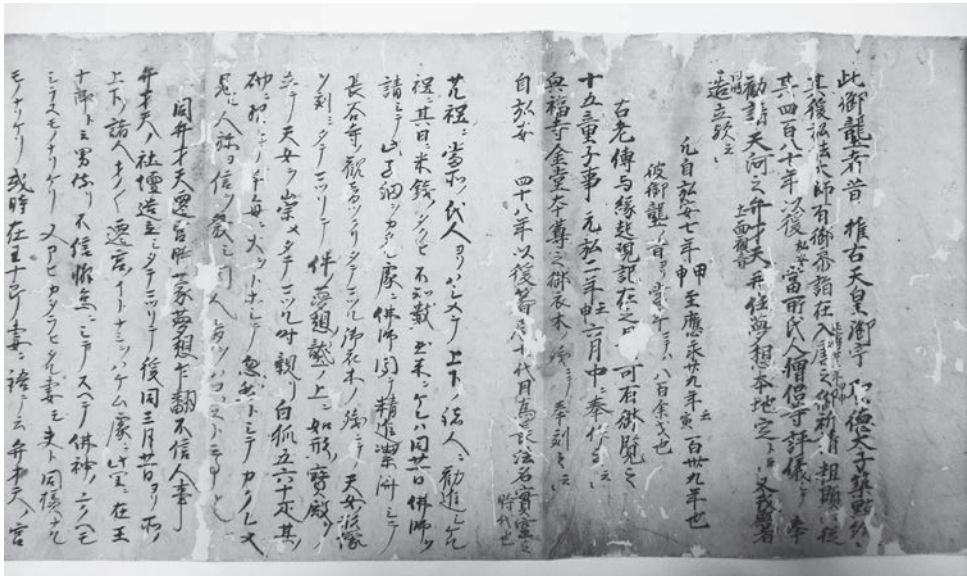
本書最終話によれば、本書は東国出身の僧が弁才天社僧の依頼を受けて編纂したもので、応長二年（一三二二）二月に成立した。本書には、源信『一乗要決』や空海『十住心論』などの經典はもとより、『文選』『白氏文集』などの漢籍、勅撰集や『和漢朗詠集』などの和書が多数引用される。その中には比較的初期の『平家物語』を踏まえていると思しき記述もあり、鎌倉期の知的環境を探る上でも注目される。

翻刻に当たっては、大福寺住職加藤祥真氏よりご理解とご支援を賜った。この場を借りてお礼を申し上げる。

凡例

- ・旧字・異体字・変体仮名は原則として現行の字体に改める。
- ・割書・小字・傍書等はできるだけ原文に近い形で示す。
- ・訓点は原文の通りとする。
- ・改行は原文の通りとし、印刷上次の行にまたがる場合には改行箇所を「」を入れてこれを示す。
- ・私意により句読点を挿入する。

写真3 巻頭（付記および上巻冒頭）



・欠損等により判別不可能な文字は□で示し、残画や既往の翻刻等から推測可能な場合は四角囲み文字でこれを示す。

・文字が重ね書きされている場合、新しい字を本文とし、元の字を（×）で示す。抹消は二重線で示す。

・校訂注を〔〕で、意味注を（）で付す。

翻刻

〔箱書、蓋〕

〔和州箸尾〕

満嶋弁財天現記〕

〔箱書、箱裏〕

〔満嶋山〕

大福寺〕

〔箱書、箱底〕

〔時万治二〕己未曆如月下旬

表具等寄進清庵

弁財天瑞夢記一部三巻〕

（1紙）

此御壘者、昔 推古天皇御宇 聖德太子築点給云々。

其後弘法大師有御参詣、延暦廿二年甲申在入唐之御祈請、粗顯云々。從

其四百八十年以後弘安、当所氏人・僧侶等評儀シテ、奉

勸請天河之弁才天[□]、并任夢想本地定^ト云々。又戎殿者^{同時}
〇造立歟云々。^{十一面觀音}

凡自弘安七年^{甲申}至応永廿九年^{壬寅}百卅九年也。

彼御壘^ノ昔^{ヨリ}当年^{マデハ}八百余才也。

古老伝与縁起現記在之。^{具ニ}可有御覽之。

十五童子事、元弘二年^{壬申}六月中^ニ奉作之云々。

興福寺金堂本尊之御衣木ノ残^{ニテ}奉刻之云々。

(2紙)

自弘安 四十八年以後、箸尾七代目為長、法名実空之

時代也。

サル程^ニ当所ノ氏人^{ヨリ}ハシメテ上下ノ諸人^ニ勸進シケル

程^ニ、其日^ニ米錢ノタクヒ不知數^一出来^ニケレハ、同廿一日仏師^ヲ

請^{シテ}此子細^ヲカタル処^ニ、仏師聞^マ精進潔濟^{シテ}、

長谷寺ノ觀音ツクリタテマツル御衣木ノ残^{ニテ}天女ノ形像

ヲ刻ミタテマツリテ、件ノ夢想ノ壘^{上ニ}如形ノ宝殿^ヲ

立^テ、天女^ヲ崇^メタテマツル時、親^リ白狐五、六十疋其ノ

砌^ニ現^{シテ}、手毎^ニ火^ヲトホシテ、忽然トシテカクレヌ。

見^ル人弥^{ヨリ}信^ヲ発^シ、^聞人歩^ヲハコハスト云事無。

(3紙)

同弁才天遷宮時蒙夢想^(第カ)乍翻不信人事

弁才天ノ杜壇造立^シタテマツリテ後、同三月廿一日^{ヨリ}所ノ

上下ノ諸人オノ^一遷宮ノイトナミ^ヲハケム処^ニ、此里^ニ在王
十郎^ト云男侍^リ。不信懈怠^ニシテ、スヘテ仏神ノユクヘモ

シラスモノナリケリ。又アヒカタラヒタル妻^モ夫ト同様^{ナル}

モノナリケリ。或時在王十郎妻^ニ語^テ云、弁才天ノ宮

ウツシトテ、所ノユ、シキイトナミナリ。然^ニ我身此事^ニ

供奉セスハ、所ノ人イカ、ヲホセラレンスラント云。妻是^ヲ

聞^テ云、其^レ思ヨラス事也。人ハ徳ノアマリ^ニスル事^ニ、我身ハ

朝夕ノ糧^{タニモ}難繼^一、其暇^{ニテ}妻子^{ヲモ}ヤシナウ態^ヲ

(4紙)

シ給^ヘカシトカタル。夫我身^モヲナシ心ナリトテ、宿^{タル}夜ノ夢^ニ

誠^ニオソロシケナル鬼形ノ者、手^ニ金ノ棒^ヲ提^テ、在王十郎^カ

枕本^ニ来^テ、所持ノ棒^ヲ以^テ彼ノ男^カ心サキヲツカヘテ云、

弁才天ノ遷宮^ヲアサムケル者也。我^ハ是天女ノ御使^{ナリ}トテ

呵^フ噴^ヲ加^フ。男、大音^ヲ上^テ叫^フ。隣ノ人、叫声^ニ驚^テ行^ク

見^ニ、彼男魂ホレテ醉^{人ノ如シ}。良久アリテ少^シ蘇生シテ、

件ノ子細^ヲ語^ル。聞^ニ付^モ身ノ毛ヨタチテラロシ。忽^ニ不信^一

心^ヲヒルカヘシテ、遷宮^ニ共奉^シ侍^リケリ。其後ハ弁才天^ヲ

信^シタテマツリテ、妻子共^ニ常^ニ弁才天^ニマキリ侍^リケルトカヤ。^(x口)

同遷宮時蒙夢想腫物平噺^(第)人事

(5紙)

此里^ニ源十郎^ト云ケル男ノ子^ニ乙法師丸^ト云童部侍^リ

ケリ。ヨコ根所^ニ大事ノ腫物出来^テ、起居^モカナハスシテ、

ヤミフセリケルカ思ヒケルハ、心ウキ事哉、時シモコソ多ケレ、カ、ル宮ウツシノ時分ヤミアハセテ、イミシクメテタキ神明ニ値遇シタテマツラヌ事トテ、サメ^ト泣宿タル夜ノ夢ニ、ヒンツラ結給ヘル女房一人来テ、彼ノ童ノ腫物ヲカキ出サセテ上ヲオシナテ、云ク、汝我ニ心サシアル物ナレハ今来レリ。スミヤカニ腫物平噫スヘシ。我ハ是弁才天也^ト失給スト思テ夢覺テ、佐手此童ハレ物ノ上ヲサクルニ、拭取タルカ如シ。喜ノ涙流ツ、臙明朝コリカキ精進シテ、

（6紙）

弁才天エマイルニ、弁才天ニ通夜シテ返リケル人、此童ニ行合テ云ヒケルハ、昨日大事ノ腫物ヲヤミテ、命モアヤウキヤウニ聞キ侍リツルニ、イカンシテ只今は^ハ詣リ侍^ソト問ケレハ、童夢想ノアリサマ細ニカタル。諸人皆渴仰ノ涙ヲ流シテ、弥信心ヲ発シケリ。貴哉。サキノ男ハ不信ナルニヨリテ呵嘖ヲカフリ、今ノ童信アルニヨリテ現病タチトコロニ平噫ス。サレハ或経云、国ニ無^ハ道惡鬼得便^一、国ニ有^ハ道善神加護之ニ云々。則此意。スヘテ此神ハ、賞罰正シクシテ、利生新ニオハシマスモノナリ。

弁才天社壇造立塚由来事

（7紙）

此里ニ藤四郎ト云男アリケリ。イマタ幼昔ニ親ニハヲクレニケレハ、ヲノツカラ哀ミカクヘキシタシミナクテ、身ヲ人ニマ

カセテ

朝夕ノ命ヲ統テ過ケルニ、去ル弘安六年五月ノ比、疫病ヲヤミ出テ侍リケレハ、家ノ内ノモノトモ拳ヲヂアヒケリ。此男は見思ヒケルハ、我身コソカ、ル心ウキ病ニトリコメラレメ、人ニサヘ引ウツスヘキヤトテ、ヤミナカラ宿出テ、此塚ノ片ハラニ藁ウチ敷テ、ヤミフセリケル。其夜ノ夢ニ、北ノ方ヨリ此塚ヘ光リヲサス。此光ノ影ニ見レハ、ツカノ上ニ金銀王^{（瑞雲）}シキ満タリ。アナユ^{（瑞雲）}シト思フ処ニ、暫アリテ、瓔珞ヲモテ身ヲカサリ給ヘル天人、其数アマタ、簫・笛・琴・箏・篳篥

（8紙）

曲ヲ調来リ給テ、此壘ノ上ニテアソヒ給フト思テ夢サメヌ。又次ノ日ノ夜ノ夢ニ、盗人数十人来テ、此壘ノ中ニイカサマニモ財宝跡トテホラントスル処ニ、ヲソロシケナル夜叉神二人、手ニ金ノ棒ヲ持来リテ云、此壘ニハ天人ノ影向マシ^{（一）}テアソヒ給間、我等昼夜ニ是ヲ守護ス。何ナル物ナレハ、此壘ヲハホラントスルソトテ、金ノ棒ヲ以テ彼盗人トモヲ四方ヘヲヒチラス^{（一）}思テウチヲトロキヌ。此男思ヒケルハ、此壘ニハ凡人ノアシヲ可踏ニアラストテ、スミヤカニ

他所ヘウツリニケリト、カタリ侍リケリ。又同此、或僧ノ夢ニ見ケルハ、此壘ノ辺リトホリ侍リケルニ、壘ノ東ニ大ナル門アリ。

(9紙)

外ニハ弓箭ヲ帶シタル物アマタアリ。門ヨリ内ニハ衣冠タ、シクシ給ヘル人其数アマタ着座シ給ヘリ。此僧不思議思テ門ノキハ近クヨリテ見ハ、此塚ノ上ニ殊勝ノ宮殿アリ。其ノ宮殿内ニ誠ニケタカケナル上臈四人ヲハシマス間、此門守護ノ人ニ問ヒケレハ、是何ナル上臈ニテヲハシマシ侍^(ル)云ケレハ、門守護ノ人答テ云、一番ハ伊勢大神宮、二番ハ春日大明神、三番ハ熊野権現、四番ハ八幡大井、此壘守護ノ為ニ御影向マシマス。其外ハ皆彼ノ眷属トモナリト云^(ス)思夢覺。其後ハ彼^(ス)僧、

和 浩

此壘常ニ恭敬礼拝シ侍リケリ。又或説ニ云ク、弘法大師大和国久米道場ノ東塔ノモトニシテ、大日經ヲ御感得アリテ

(10紙)

辻

開見給ニ、義理滞リアルニ依テ、類ニ渡唐ノ御志アル間、大師聖徳太子ノ御廟ニ御参籠アリテ、此事ヲ御祈請アル処ニ、太子告テ云ハク、我昔仏法弘メシ時、四十六ヶノ伽藍ヲ建シ中ニ、大和国広瀬郡広瀨寺ノ東方、保八町ノ内ニ小壘アリ。〇件小壘ニ尋来リ給テ御祈請アル処ニ、十四、五計ナル小冠〔者脱力〕一人現メ云、是^(ル)丑寅三里計ヘ行テ辻占ヲ可問ト云々。大師夢想ノ告ニ任テ辻占ヲ問給フ処ニ、南ヨリ人八人青壺荷テ北ヘ行。其時大師御心中ニ思食ケルハ、我願已ニ満シヌ。五瓶ノ智水ヲ沐セン事、ウタカヒアルヘカラストテ、去延暦廿三年五月十二日御入唐アリテ、青瀧寺ノ

(11紙)

惠果和尚ニ逢奉リテ、真言ノ奥義ヲ極メ給テ吾朝ニ弘メ給シヨリ以来、青瀧寺ノ遺風遠ク扇^(仰)テ、四曼ノ法灯久シク明カ也。高野山ノ五智房・恵日房ノ相伝日記云、彼ノ小壘ト云ハ、箸尾二飯ノツカ是也。辻占ト云ハ今ノ袖ノ原是也。体日房ノ口伝ニ云ク、大師遺誠抄居文ニ云、若高野弁才天スタル、時アラハ、箸尾ノ小壘ニ可詣ト云々。又体日房天河弁才天ニ参籠シ時、天女体日房ニ示シテ云ク、此弁才天廃スル事アフハ、我孫子箸尾ニアリ。汝カシコヘ詣スヘシト云々。

高野東禪院ノ行智房ノ相伝云、箸尾二飯ノツカニハ、金銀二ノ大蛇アリト云々。又古老伝云、推古天皇ノ御宇ニ

(12紙)

大和国広瀬郡寺本ノ村ニ聖徳太子伽藍ヲ建テ給フ。

広瀨寺トナツク。彼ノ寺ノ東方六町ノ内ニ太子同シク地ヲトメ壘ヲ築テ、宇賀神ヲ崇給フ。是ヲ二飯ノツカトナツク。

雖然、機感イマタ不致^(異音)之間、彼御体ヲ此壘ニ埋ミ給、金銀白蛇是也。化縁時至ハ必ス其^(異音)瑞相ヲ可示ト云々。然則ツカハ是救世観音ノ旧跡、神ハ又末法相応ノ天女ニテマシマセハ、御影向時イタレルニヤ、カ、ル不思議ノ瑞相共顕ハレ侍ト覺ヘテ誠ニ信仰ノ心肝ニ銘シ、感歎ノ涙衫^(異音)ウルホシ侍リケリ。

大禪上人拜殿造立事

大禪上人トテ、此所ノ氏人ニテオハシケルカ、幼少ノ時ヨリ南都

（13紙）

興福寺ニ住テ法相宗ヲ学セラレケリ。後ニ碩学ノ笠義ヲ
 遂テ、五性各別ノ旨ヲ極メ、唯識唯心ノ理ヲ被悟レケリ。或時
 論議ノ場ニ列テ、三論ノホコサキヲナラシ、五十ノ莛ヲ重ツ、
 名聞ノ心スコシ出来テ侍リケリ。然間、大禪上人思ハレケルハ、是
 ナヲヨシナキ事也。イカニモ人法ノ二執ヲ断シテコソ、仏果并ハ
 成スヘキ也トテ、忽ニ招提寺ノ円律上人ノ室ニ入テ持戒持律ノ
 僧ニナリテオハシケリ。然ニイサ、カノ事ノタヨリアルニヨリ
 テ、河内国」
 太子堂ノ長老ニ彼ノ寺ニスマレケル時、或人大禪上人ニ語リケ
 ルハ、
 大和箸尾ニコソ弁才天ヲハシメテ崇メタテマツリテ、其ノ
 靈驗モイト新ニオハシマスと云ケレハ、大禪上人実シカラスナ
 ント」
 （14紙）
 云テ宿セラレタリケル夜ノ夢ニ、天女大禪上人ニ告テ云ク、汝
 持戒持律ニシテ仏法ノ器ナリトイヘトモ我ニ信ヲオコサス。是レ
 フカキ恨也。汝信ヲ我ニイタサスンハ誰ノ人カ我ニ信ヲナスヘキ。
 イソキテ我住侍ル箸尾ヘ来ヘシトテ、夢覺ス。大禪上人
 聽其ノ朝河内国太子堂ヨリ当社弁才天ヘ詣リテ、社頭ノ
 アリサマヲ見給ニ、只事ニアラス。天女御影向アルニヤト思
 ハレケル」

ニヤ、聖ニ事ノ次第ヲ細ニ問ヒ給ニ、ヒシリ勸進ノ由来ヲ具サニ
 カタル。大禪上人是ヲ聞テ信仰ノ心忽ニヲコレケリ。其時
 御宝殿ハカリ如形ニ造リタテマツリタレトモ、御マエワラニテ
 ウエ」

フキタル仮拝殿ナリ。大禪上人云、我身勸進聖トナリテ
 （15紙）

拝殿造立スヘシトテ、ヤカテ当社弁才天ニシテ最勝講ヲ
 被講一ケリ。此經ニハ專弁才天ノ御事説キ顯セル經也。又
 大禪上人年来此經ノ持者ニテオハシケレハ、初ノ序品ヨリ終ノ
 付属品ニ至マテ、心ヲ尽シ信ヲ致シテ、講讀セラレケル間、聴聞ノ
 人々随喜渴仰奉加シケル間、同弘安七年五月廿五日ニ拝殿ヲ
 立ラレケリ。上棟ノ日曼荼羅供ナント行テ、ネンコロノ供養ヲ
 ノヘラレシカハ、神明イカニ納受シ給ラント覺ヘ侍リシ也。爰ニ不
 思議ノ事アリ。并ノ里ヨリキト云男神子侍リケルカ、吉野蔵王
 権現ニ一七日參籠シテ下向シケルニ、壺坂ト云所ノ一本松ノ
 本ニ少シ休ミタリケルニ、ヤサシクタヘナル女房ノヒ〇ヤウウ
 ラナシ」
 （16紙）
 ハキ給ヘルカ、只一人北方ヘ向テ歩給フ。ヨリキ此女房ニユキ
 ツレテ申シケルハ、是程ヤコトナキヤウニヲハシマス上臈ノ、
 只一人」
 何クヨリイツチヘヲハシマシ候ト申シケレハ、彼女房答テ云、

我^ハ是^レ」

箸尾^ト云里^ヘカヨヒ侍^カ、今日彼所^ニ我住侍^ヘ宿^ノ棟上^ヲスル

間、サテ此吉野^ノ奥^リ里^{ヨリ}箸尾^ヘ行侍^ルナリトヲホセラルレハ、

ヨリキ、我等^モハシヲチカキ里^ニ住侍^ルナリ。同^ハ御共申^ヘシトテ、

ツレ」

タテマツリテクルホト^ニ、壺坂^ノ此方、水吞^ト云所^ニテ、此女房

ハカキ」

ケスヤウ^ニシテ失給^三ケリ。ヨリキ不思議^ノ事哉^ト思^テ、ヤカテ

我里^ヘモカエラスシテ、先箸尾^ヘ来^テ家作^ル所ヤアルトミル^ニ、

弁才天^ノ拝殿^ノ棟上ナリ。ヨリキ此由^ヲ参詣^ノ人々^ニ語^リケレハ、

(17紙)

吉野^ノ奥^ヲ弁才天^ノ御影向^{ナリトテ}、イヨく当社弁才天^ヲ

(異筆頭書「ケツツクル」)

婦依渴仰^{シタ}マツル。大禪上人^モ此事^ヲ聞給^テイヨく信心^ヲ

イタサレケリ。サテ大禪上人^ヲ拝殿^ノ造立^思様^ニシテ後、又

一七日」

参籠^{シテ}天女^ノ御名残^ヲ惜^ミ給^{ケル}夜、天女此^ノ上人^三示^{シテ}云^ク、

汝我^ニ信^至忠^ヲツクシテ我拝殿^ヲ造立^{セリ}。然^ハ現当共^ニ

汝^ヲ擁護^スヘシ。但我所^ヲハ満嶋^トナツクヘシト告給^ヒケリ。其^ヨ

リ」

シテ当所^ノ弁才天^ヲハ満嶋^ノ弁才天^ト申侍^リケルト^三カヤ。

情^此心^思ハ、満^ハ是参詣^人ニ普ク福智^ヲ円満^セシメ、嶋^ハ

又秋津嶋^ノ衆生^ヲ救^ヒマシマサンカ為^ニ、名^ヲモテ徳^ヲ顕^{ハシ}給^{カト}覺^{ヘテ}、イトタノモシク貴ソ覺^レ侍^リケル。

(18紙)

信経房祈往生事

此所^ノ刀祢^{ニテ}信経房入道^{トテ}オハシマシケリ。栄花

栄耀^ヲ極^メ、官位寵職^ヲ重^テ、子孫繁昌^{セラ}レタリ

ケルカ、年既^ス六十^ニナリ給^ヒケレハ、ヒトスチ^ニ三界^ノ火宅^ヲ

出^テ、九品^ノ浄土^ニ生^{レン}事^ヲ願^ヒ給^{ケル}間、同年^ノ冬^ノ比、

当社^ニ参籠^{シテ}、往生極楽^ノ祈請^ヲネンコロ^ニセラレケル

程^ニ、一七日^ニ満^{スル}夜、西方^{ヨリ}光^ヲ放^テ信経房^ヲ照^シ給^ト

夢^ニ見^テ、ソノ朝、聖^ニ被語^一ケルハ、我参籠^ノ本意^{、偏}

往生極楽^ノ祈請^ノ為也。然^ニ今夜西方^{ヨリ}光^ヲ放^テ

信経^ヲテラシ給^ト夢想^ヲ蒙^{レリ}。付^之不^ニ審少^シノコレリ。

(19紙)

此^{宮殿ノコト也}宝殿^ノコソ加様^ノ瑞相^ヲハシマスヘキニ、遥^ニ西方^{ヨリ}光^ヲ

放^テ給^ト思^ヒ侍^リツルト語^リ給^{ケレハ}、聖^リ答^テ云、夫神明^ト

申^ハ諸仏并往昔^ノ悲願^{ニテ}闡提^ノモノヲ導^{カン}カ為^ニ、

暫^ク本地^ノ宮^ヲ出^テ垂迹門^ニヲモムキ給^テ、賞罰^ヲ

正^{シク}シテ、不信懈怠^ノモノヲ導^キ給^方便門也。雖然[、]

衆生成仏^{スル}時^ハ偏^ヘ出^ニ離生死^ノ御祈請^ノ為ナレハ、

天女^モ本地^ノ我浄土西方極楽^{ヨリ}直^ニ光^ヲ放^テ、其^ノ

瑞相^ヲ示^シ給^トヲホヘ侍^リ。御所願成就^{セン}事ウタカヒ

アルヘカラスト答ヘケレハ、信経房此事ヲ聞給テ、イヨ／＼
信心ヲオコサレケリ。サテ明年ノ五月二日、生年六十一ト
（20紙）

申シケルニ、端坐合掌シテ西方ニ向十念、心ニ任テ終リ
被遂ニケレハ、紫雲其上ニ聳キ侍リケルトカヤ。

依夢想奉収仏舍利事

社僧ノ中ニ老僧一人侍リケリ。幼少年ヨリ仏法ニ志シ深キ
人ニテ、坐禪ノ床ノ上ニハ心水澄シ、観念ノ窓ノ中ニハムネノ
蓮開、徳タケ、齡ヒ老タル僧也ケリ。然ニ去正応五年ノ
春ノ比、イサ、カ心中ノ所願祈請ノ為ニ、当社弁才天ニ参
籠シタリケル夜、天女現シ給テ、此老僧ニ告テ云、如来ノ駄都ハ、
仏法ノ棟梁、人間ノ宝珠也。我特ニ末法ヲサシテ誓願ヲ発
シテ衆生ヲ度ス、是皆舍利ノ力也。然ハ我宝前ニ舍利ヲ安

（21紙）

置シテ常ニ呪力ヲ可添トテ、天女カクレ給ヌ。明ケヌレハ、
此事ヲ社僧共ニ語ル間、示現ノオモムキニ任テ仏舍利数
粒ヲ御宝前ニ奉納シテ、社僧共毎日ニ経巻ヲ転読シ、陀
羅尼ヲ誦シテ、天女ヲ恭敬シタテマツレリ。夫舍利ト者、如来ノ
身密、神明ト者、如来ノ意密也。社僧共如来ノ語密ノ経巻
ヲ読、陀羅尼ヲ誦シテ、天女ニ呪力ヲソヘタテマツル間、
三密相応シテ舍利ト天女ト互ニ定恵トナリ給テ、衆生ニ
福智ノ二法ヲ与ヘ給フホトニ、靈験掌ヲ差如クメ、参詣ノ

人絶ル事ナシ。就中一、我日域ニハ神明跡ヲ垂マシマセハ、和
光ノ風、千里ノ外ニナヒキテ、夷狄ノチリ、万里ノ間ニ立事
ナシ。
（22紙）

弁才天ハ本地門ヲ思ヘハ、是大慈大悲ノ觀世音、末法ノ
衆生ヲ哀ミ給テ、苦ヲヌキ樂ヲ与ヘ給フ并也。垂迹門ヲ
尋レハ、又宇賀福天、貧乏除キ福ヲ与ヘ給天女也。故ニ経云、
我滅度後於末法中現大明神広度衆生云々。然則、人皇
七代ニ当リ御座ス御門ノ御宇ニ、初テ此神ヲ祭リ給テ後、三種ノ
神祇ヲ以テ位継キ、政治ヲ給ヒシヨリ以來、代々ノ御門必ス
御即位ヲ始ニハ、此神ヲ祭リ給ヘリト、古キ伝ニモ見ヘ侍リ。其上此
天女ハ、伊弉諾・伊弉冉ノ尊ニテヲハシマセハ、天照太神トハ一
体分身ノ御事也。然則、日本扶桑国ハ皆是弁才天ノ
靈地トシテ、上人ヨリ下万民ニ至マテ、此天女ノ恵ニモル、事

（23紙）

ナシ。サレハ聖武天皇東大寺御建立ノ時モ、觀願成就ノ
御為ニ右大臣藤原国平ヲ御代官トシテ、四弁才天ハ被
参テ御祈請アリケレハ、無程ニ御觀願成就セシメ給
然ハ、弁才天ノ御体ヲ作り奉リテ、彼大仏ノ御身ノ中ニ
籠給ヘケリト古キ伝ニモ見ヘ侍リ。恭モ日本ノ主、人皇ノ
大祖、尚以テ弁才天ヲ崇メタテマツリ給フ。何況ヤ下賤
拙キ我等、偏ニ此神ノ恵ヲ可奉仰一者也。

依夢想於当社弁才天祈雨事

去弘安九年七月ノ比、当国ノ中ヲヒタ、シク旱魃^{シマ}、
農夫^ハ鋤^ラステ、青苗^ハ辺^ニ歎^ミ含^ミ、機女^ハ手^ヲ空^メ

(24紙)

枯^{タル}桑^ニウレエヲイタキケリ。カ、リケレハ、人ノ命^モタスカリ

カタキ間、國中ノ上下諸人雨ヲ祈リケル比、箸尾ノ里^{ニモ}

トキ^ニシ^テ済^ス戒^ヲ持^チナントシテ、年来ツケタル処^{ニテ}、

雨^ヲイノリ侍^リケレトモ、碧浪^ニ雲オサマリテ、日ノ光イヨク

モノヲコカス間、諸人方角ヲ失^フ処^ニ、或僧ノ夢^ニミケルハ、

当社弁才天^ハ詣^テ侍^リケレハ社頭^ハ御前^ハ蕩々^{トシテ}深^キ

渚^{ナリ}。渚ノ底^{ヨリ}龍王出給^テ、此僧^ニ示^{シテ}云、此程国ノ

中大^{キニ}旱魃^ス。但当社^{ニシテ}雨^ヲ祈^リ侍^{ラハ}、雨必降^{ヘシ}。

我^ハ天竺^ニ無熱池^{ヨリ}来^{レリ}トテ夢^{サメス}。サテ明^{クル}

朝、此事^ヲ披露シケレハ、此里ノ上下諸人各弁才天^ヘ

(25紙)

アツマリテ、一日一夜^ニ済^ス戒^ヲモチテ、天女ノ宝号^ヲトナヘ

心経^ヲヨム。心経ノイマタ七卷^ヲワラサルニ、吉野ノ奥ノ弁才天ノ

上トヲホシキ方^{ヨリ}黒雲一流^ヲ聳^{タナヒキ}タリ。諸人は^ヲアヤシミ

テ見^ルホト^ニ、俄^ニ晴タル空カキ曇^{リテ}車軸^ノ如^{ナル}雨降^リ

ケレハ、人皆信仰ノ涙^ヲナカシテ随喜ノ袖^ヲシホリニケリ。

抑、天竺^ニ無熱池^{ニハ}善女龍王住給^{ヘリ}。此龍王^ハ則弁才天

化現^ノ御身也。長徳ノイニシヘ、天下大^ニ旱魃^{シケル}間、

依^ニ勅定^一周印僧正雨ノ祈^ヲセラレケル^ニ、一七日^{ト云ニ}、纔^ニ

洛ノ中ハカリ雨降^{リテ}卒土尚旱魃^ス。因茲^ニ、又在^ニ、勅定^一、
弘法大師雨ノ祈奉^{リ給ヒケル}ヲ、周印聞給^テ、大師^ニ

(26紙)

為作恥辱^一、一箇浮提ノ大小ノ龍共^ヲ水瓶ノ中ニカリ籠^テ

置給^{タリケレハ}、大師一七日^{マテ}行^{ヒ給ニ}、雨不降^一。其時大師

恠^ヲ成^{シ給テ}、定^{ニテ}入^テ御覽^{スルニ}、周印僧正諸ノ龍王共^ヲ

水瓶ノ中ニカリコメラレタル間、雨不降^一。然^ニ天竺^ニ無熱池ノ善女

龍王計ノコリ給^{ヘリ}。依^之、大師今^ニ三日^ヲ申延^{ヘ給テ}、彼

善女龍王^ヲ神泉池^ニ勸請^{シ給テ}、種々ノ秘法^ヲ行^ヒ

給^テ、法味^ヲ備^{ヘ給シカハ}、善女龍王大師^ヲ貴^{ヒ奉テ}、法ノ

御布施^{ニトテ}、如意宝珠^ヲ奉^{リ給ケリ}。其後天下^ニ思程

雨降^{シカハ}、国土豊^ニ民榮^{ヘ侍ケリ}。其^{ヨリ}以来、天下旱魃

ノ時^ハ、必ス東寺長者依^ニ、勅定^一、彼神泉渚^{ニシテ}請^ル

(27紙)

秘法^ヲ行^{ヒ給ヘハ}、于今^ニ至^{マテモ}其^ノ記^シ新^{ナル}者也。是偏^ニ

弁才天ノ徳用^{ニヨレリ}。又周印僧正^ト弘法大師^{トハ}共^ニ權

化^ノ人^ヲタチ^ヲ御座^{シケレハ}、周印、大師ノ御威光^ヲ為奉^シ増^一、カ

ヤウ^ニ

アソハシケルトカヤ。此事今更コ、注^スヘキモアラネトモ、弁

才天^ト善女龍王^ト一体分身^{ニシテ}、天神^{トナリ}、地祇^ト

アラハレマシ^{クテ}、衆生^ヲ加護^{シ給事ノ難キ}有^一間、フルキ

伝^心トトリテ一ハシカキノセ侍^リ。加^ス之、弁才天^ハ天^ニマシ

くテハ」

卅六禽アラハレ、地ニ在テハ卅六竜トナリ給テ、衆生ノ願ニシタカイト所求ノ悉地ヲ成シ給ヘリ。或ハ禄命身ニ同

スル時ハ、十五童子トナリテ一切ノ資具ヲ円満シ、無辺ノ

（28紙）

願望ヲ成就ストモ云ヘリ。其十五童子ト者、第一ヲハ印鑑

預ノ神ト云。印鑑以テ常楽蔵開テ、衆生ニ楽ヲ与フ。

乃至十五ヲハ、市津船預ノ神ト云。モロくノ商人ノ利ヲ

ネカフモノニ利ヲ与ル神也。惣テ此十五童子ハ、面々ニ弁才天ノ

一徳ヲササトリ給テ、シナくノ機根ニ向ヒツ、衆生ノ所求ノ悉

地成シ給モノナリ。然ハタトヒ刀・疾・飢ノ世ニ生レアフトモ、

弁才天ノ仰歩ヲ運ヒ信心至^{（成）}サン人ハ、現世ニハ三災ノ

難ヲ遁レテ、後生ニハ必ス成仏ノ直道ニ可至^{（成）}ルモノナリ。

南都或得業於当社賜橋事

南都ニナニカシノ得業トカヤ申テ蛭雪ノ学文不^{（成）}懈^{（成）}侍リ

（29紙）

ケル僧一人アリケリ。然ニ学窓ニ集シ雪モ尽テノ後ハ

法ノ灯ヒカ、ケカタシ。貧道ニシテハ惣テ本意難^{（成）}遂^{（成）}ト思テ、

春日大明神ノ詣^{（成）}福分^{（成）}祈^{（成）}給ヒケルニ、其シルシナシ。カ、リ

ケレハ、三笠ノ山ノ峯ノ嵐ネヤノ上ニハケシク、春日ノ里ノ

夜ノ月窓ノ中ニスサマシ。サテアルヘキナラネハ、本寺ヲ

離レ侍リケルカ、箸尾満嶋ノ弁才天ノ靈験新ニ御坐ヲ

聞テ、此得業当社ノ詣テ、今一度修学ノ本意ヲ遂^{（成）}

事ヲ深ク祈請ス。参籠ノ間モ唯識要文ナント誦シテ、

天女ニ法味ヲ備ヘ奉リケリ。一七日ト云夜、天女現給テ、

橋ニ^{（成）}ナリタルカ只今取^{（成）}如クナルヲ彼得業ニタフト

（30紙）

思テ、ウチ驚キテ侍レハ、示現ニ所給ノ橋、親リ枕ニアリ。

得業イヨく信至^{（成）}テ、天女ヲ礼シ奉ケリ。聽^{（成）}テ得業

聖^{（成）}ニ此事ヲ語テ、橋ヲ見セラレケレハ、聖ノ云ク、難有^{（成）}リ御

事哉。橋則人間ノ宝珠ナリ。宝珠ハ是世出世間ノ珍^{（成）}

フラス玉ナリ。然ハ御願ノ成就シ給ハシ事不可有疑^{（成）}。早ク

本寺ヘ歸リ給テ、修学ノ本意ヲトケ給ヘト語リケレハ、得業

渴仰ノ涙ヲナカシツ、天女ノ御名残ヲ惜ツ、明ヌレハ急^{（成）}

出^{（成）}テ南都ヘ被帰^{（成）}ケルトカヤ。其後イクホトナクシテ碩学^{（成）}

豎義ヲ遂テ瑜伽唯識ノ旨ヲ極メ、八識三無性ノ理ヲ

サトレリトウケ給リ侍リ。情事ノ心ヲオモヘハ、弁才天ハ

（31紙）

是天照太神トヨナシ御体也。春日大明神ハ又天照太神^{（成）}

一体ノ御事也。サレハ此天女ノハシメテ此所ニ御影向マシマス威

光ヲソヘタテマツランカタメニ、神ト神トノ御計ニテ、此得業^{（成）}

是^{（成）}マテ歩^{（成）}ハコハセラレケルカト覺^{（成）}ヘテ、イト恭^{（成）}貴^{（成）}覺^{（成）}ヘ

侍リケリ。

盲明眼毎年千部經転読聖事

明眼ト云盲者一人侍リケリ。イマタ幼少ノ時ヨリ両眼ヲ失フ
間、ヲノツカラ道場ニ望トイヘトモ、仏經ヲ不奉拝、又日月ノ
光ニ向ト云トモ其光ヲ不奉見一シテ侍リケルカ、有時彼ノ
明眼靜ニ思^{ケルハ}、我適難受一受^テ人界ニ生一ヲ、難遇奉^レ値^ル仏
(32紙)

教ニ事ハ、喜^ノ中ノ悦ナレトモ、彼^ヲ眼ニフレスシテ一期空^ニ
暮^{サン}事、只珍ノ山ニ入^テ手^ヲ空^{スルカ}如シ。心ウカルヘキ事
ナリ。サレハ大集經ノ中ニ先^ニ由^ニ世ノ業ニヨリテ今生ノ果報^ヲ
明^テ云ク、

(異筆ニ「シクロ」)

端正者忍辱中来 醜^(位カ)陋^ニ者毀他中来 富貴者布施中来
貧窮者慳貪中来 高性者礼拝中来 下賤者憍慢中来
愚癡者誹謗中来 盲聾者不信中来 長寿者慈悲中来
短命者殺生中来 六根具足者持戒中来 諸根不具者破戒中来^文
此中ニナラカナシキハ、盲聾^ノ者ニシクハナシ。然^ハイカナル願
ヲオコシテ、

此度先業ヲモツクノハ、ヤト思^ヒタチケレハ、或人ニ此事^ヲ
(33紙)

云アハスル処ニ、此人明眼ニ教^テ云、夫大小権実ノ經教多シト
云トモ、法花經ニ勝^ハナシ。其上如來出世成仏ノ本懷、只此
經ヲ説マシマサンカタメ也。サレハ五十展転隨喜ノ功德尚以莫太
也。況^ヤ書寫誦誦ノ人ニヲキテハ、微塵ノ此世界ニミテ^(ス)ルカ如ク
シテ、タトヒ劫石^ハ磷^キ、芥城^ハ尽^{トモ}、此功德不^{シテ}尽^一

龍花ニ云ノ曉^{ニハ}、必慈尊成道ノハナフサ^ヲモテアソヒテ
初会ノ聖衆ニ列^ルヘキモノナリ。又殊更法花^ハ是^ニ日本
相応ノ教也。故ニ天台ノ尺云、日本一洲円機純熟、朝野
遠近皆帰一乘^ト云ヘリ。然^ハ法花經ニ勝^レタル事アルヘカラス
トネンコロニカタリケレハ、明眼忽^ニ隨喜ノ思^ヲナシツ、何^ニモ
(34紙)

シテ檀那^ヲス、メ、又持經者^ヲカタラヒ侍^{リテ}、イカナラン
靈場^{ニテモ} 毎年千部ノ法花經ヲ転読シタマツラハヤ
ト思^フ願^ヲ深^クオコシテ、ネタリケル夜ノ夢^{ニ云ク}、ユ、シ
ケナル天女來^リ給^テ、明眼ニ告^テ云、汝先業ノ所感ニヨリテ
今生ニ盲者生タル事ヲナケキテ、彼業因^ヲツクノハン
タメニ千部ノ法花經転読ノ願^ヲオコセリ。然^ハ箸尾滿嶋
弁才天ニシテ、此願^ヲ可^一果^一。我是滿嶋ノ神ナリトテ、
天女カクレ給^{スト}思^テウチヲトロキヌ。アケヌレハ明眼イソキ
箸尾ノ里^ハ來^テ、上下ノ諸人ニ弁才天ニシテ法花經
毎年転読ノ志^シアル由^ヲ語^{リテ}勸進シケレハ、各ノ
(35紙)

檀那ニナルヘキ由^ヲ領狀シケル間、明眼ヨロコヒテ、國中ノ持經
者トモヲ縁^ニシタカヒテ語^ヒ侍^{リテ}、去正応五年ノ霜月、
比^{ヨリ}ハシメテ当社^{ニテ}千部ノ法花經転読シタマツル事、
年々歳々ニオコタル事ナシ。然^ハ則誦誦音フリテ、聽聞ノ人ハ
長睡ノ眠^ヲヲトロカシ、薰習年ツモリテ結縁ノ輩^ハ始覺ノ

サトリ^ヲ開カト、イト貴ク覺ヘ侍リ。憑支哉。此明眼設^ヒ
今ノ法花經誦ノ功カト云、又弁才天信仰ノカト云、
 先世宿業拙^クシテ、今生ニ目シヒト生^ル、トモ、〇後生^{ニハ}

必ス安樂ノ国土ニ生^テ常樂ノ台ニ遊^フヘキモノナリ。又此^(X)

法花經誦ノ事、誠ニ神慮^モ御納受マシマスニヤ、

此經^{ニハ}一紙半錢ノ布施物ナケレトモ、年コトノ霜月^ニ

（36紙）

ナリヌレハ、持経者トモ、弁才天ノ經^ニマイリタキ心アリテ、
 カタ／＼ノ請用^ヲサシオキテ当社ヘマイルヘキヨシヲ持経者
 トモ愚僧対面ノ時、物語^シ侍リシナリ。

淨戒房同弁才天社壇造替事

淨戒房去正安元年ノ春ノ比、信貴山・長谷寺ノ修複^(復)勸

進スヘキ志アリテ、此事ヲ祈請センタメニ、先天ノ河ノ弁才天ヘ

詣^テ、無^ニ信心^ヲ發^テ、所願成就ノ旨ヲ祈請スル夜、

深更ニヲヨヒテ淨戒房スコシウチマトロミテ侍リケル^(X)ニ、

夢現^{トモ}ワキカタキホトニ御宝前^ニ異香薰^シワタル。暫^ク

アリテ、御帳^ヲ開^キ給^フ見^レハ、年老々^ニシテ〇、エモイワヌ^(X)

（37紙）

世ニクカケニオハシマス高僧ノ香ソメ御衣キタマヘルカ

ホトイツクシキ童子ヲヒトリ先ニタテ、出給^{ヘリ}。スナハチ
 淨戒房^ニ告云、童子^ヲ汝^ニアタフ。ハク、ミタツヘシト云々。首^ヲ

傾^テマウサク、家^ヲ出^テ、カ、ルアサマシキ通世ノ身ニマカリ

ナリ候ヌル上^ハ、争^テサヤウノヤコトナキ御事^ヲウケトリ

タテマツルヘキト申候^ルニ、高僧ノ重^テ云、思^フヤウノアリテ

汝^ニ与^フ。此童^ヲ人タテム事、只汝^カハカラヒタルヘシトテ、入
 給^ヌ思^テ打驚^ヌ。淨戒房アサマシト思テ、渴仰ノ涙

タ墨染ノ袖^モシホルハカリナリ。サテ曉方ニナリヌレハ、月

出程^ニ下向ノ道^ニオモムキテ行程^ニ、或岸ノ上^ニ、年ナラハ

七歳ハカリナル小童ノ手^ニ朴^ノハカリナル玉^ヲ持^テ立^リ其色^也。

（38紙）

淨戒房行留^{リテ}此玉^ヲツク／＼トミル^ル処^ニ、小童ノ云、此

玉^ヲ御房ホシキカトテ淨戒房ニ与ヘテ、小童ハ忽然^ト

失^ヌ。淨戒房此玉^ヲフトコロニ入^メ信貴山ノ方ヘヲモムキ

行程^ニ、ヒタカト云所^{ニテ}、当社ノ聖^ニ思^ヒカケス行会^ヌ。年

来ノ知人タル間、淨戒房我庵室ニイサナヒ来^テ、ヒルノ

カレキ、ナントス、メケル次^テ、聖^ニ淨戒房^ニ語^テ云、此所^ニ

弁才天^ヲ崇^メタテマツル^ニ付^マ、取アヘヌ事共^{ニテ}侍^シ

間、先仮宝殿^{ハカリニテ}侍^ルヲ、造ナヲサハヤト思願アル間、

態^{トモ}勸進ノタメニ申^サハヤト思ツル^ニ、幸^ニ今行合タテ

マツリス。是偏^ニ神明ノ御計ト覺ヘタリ。当社ノ勸進^{シテ}

（39紙）

社壇^ヲウルハシク作^リナヲシテタヘカシト云、淨戒房シカ

／＼ノ

大願^{アリ}。叶^フマシキ由^ヲ云^ルニ、聖重^テ云、其願^モ弘法

利生^ノ為^{ナリ}。是又神明ノ御事^{ナリ}。何貴^ヒ、何^レ賤^{シミ}

給^ヘキツ。サレハ高野ノ大師十住心論云、地獄天道仏性

闡提乃至二乘一乘皆是自心仏之名字焉捨焉取

トテ、カレラステ、是取事、大ニ仏法ノ誠事ナリ。御辺

又如来ノ遺弟シテ、カ、ル興隆ヲ業トシ給ヘリ。然ニ小所

ヲハステ、大所ヲハ興隆シ給ヘシ事、偏ヘニ名門也。所詮

此社壇ナルナラスハ、御房ノハカラヒタルヘシトテ、ナケカ
クル所ニ、

淨戒房心ノ中ニ思ケルハ、奥ノ弁才天ノ御示現ニ、高僧ノ

(40紙)

ハク、ムヘシト被仰^{ツル}童子ハ、此弁才天ノ御事ヲ思食

シテヲホセラレケリ。其故ハ、示現ニモ此童子ヒトタテム事、

愚僧カハカラヒトカフレリ。又聖此社壇ナルナラスハ愚

僧カハカラヒト仰ラル。示現ノヲモムキト聖ノコトハト符合

セリ。サレハ弁才天ノ此所ヘ御影向ウタカヒナシトテ、淨戒房ハ

示現ノアリサマヲ委細ニカタル。聖、当社ノ建立ノ不思議ナリシ

由来ヲクハシク云テ、共ニ随喜ノ涙ヲナカシ侍テネタル夜、

夢ニ、淨戒房ノ枕ニ天女現給テ示シテ云、我広度衆生ノ

為ニ吉野ノ奥ヨリハルノト来^{レリ}ト云ヘトモ、宝殿セハク

シテ参詣ノ人其信ウスキニタリ。汝宝殿ヲ造リ改テ

(41紙)

我願ヲ成就セシムヘシト告給間、淨戒房モ先ノ示現ト云、

今ノ夢想ト云、イヨノ信心ヲオコシテ勸進シケレハ、是ヲ

聞テ親疎遠近ノ貴賤上下、米銭ヲタクヒヲオシマス寄テ、

土木ノイトナミヲハケム間、無程ニ社頭モ造立シテケリ。其後

奥ノ弁才天ノ道ニテ小童ノ手ヨリ得トコロノ玉ヲモ当社ニ

奉納。此玉ハ則宝珠也。天女ハ宇賀福天ニオハシマス。

宝珠ハ又万宝出生ノ基ヒナリ。サレハ一度モ当社ニ歩^ツ

運ム人ハ、貧乏ノ憂ヘナク、刹那天女ニ信^ニ至^ニサン輩ハ、

現当ノ徳用ニホコルヘキ者也。

念仏房奉納御正体事

(42紙)

念仏房去正安ノ比、信貴山ノ御堂ノ木尻ノ金物スヘキ

願アリテ、有同朋僧ニ此事ヲ云アハスルニ、此僧念仏房ニ云

ケルハ、如何様ニモサヤウノ事ハ福分カケヌレハカナハヌ事ナリ。

吉野ノ奥ノ弁才天ハユ、シキ福天ニオハシマス。先アレハ参テ

此事ヲ祈請シテミ給ヘカシト教フル間、念仏房ケニモトヤ

思ケン、ハルノト山又山ノ雲ヲワケテ彼ノ天ノ川ノ弁才天ヘ

詣ル。比ハ八月ノ末ツ方ノ事ナレハ、在明ノ月モ物サヒシクテ、

松吹風モイトアハレナリ。社頭ノ在様ヲ拝スレハ、コトニ神サヒ

テス、ロニ、心モスミワタリケリ。サテモカ、ル人跡タヘ

テ、山深キ

処ニカタシケナクモ此天女ノ跡ヲタレマシノテ、衆生ヲ濟度

(43紙)

シ給フニ、イカナル我等ナレハ不信懈怠ニシテ、徒ニ明暮シツラン

トテ、涙ヲナカシケリ。サテ夜深ク程ニ、念仏房遍身ニ汗ヲ

ナカシ、発露涕泣シテ、天女ヲ恭敬礼拝シタテマツル処ニ、御
宝前ニ物ノナル音トシテ、誠ニアキラカナル御正体一面落^テ、
念仏房ノ墨染ノ袖ノ上ニカ、リ給ヘリ。念仏房此御正体ヲ戴^キ
タテマツリテ、住持ノ僧ニ此由ヲカタリテ御正体ヲ見セ
ケレハ、彼僧正面ノ方ヲミテ申シケルハ、不思議ノ事哉。
今落給^{ヘル}御正体ハ、天女垂迹ノ昔^シヨリノ御正体ニ^モ、少
曇^リマシマサストウケ給^リ伝ヘタリ。サレハ当社ノ重宝
是也。然^ニ此所^ハ是峨々タル深山ニ^テ、ヲホロケノ志アル人

（44紙）

ナラテハ参ラネハ、此天女広度諸衆生ノ御為ニ他所ヘ
御影向アルヘキ瑞相ヲ示^シ給^ト覺ヘタリ。早ク御房戴^キ
タテマツテ、何^クニテモ機感相応ノ地ニ崇メタテマツリテ、普^ク
諸人ニ縁ヲムスハシメ給^{ヘト}云ケレハ、念仏房イヨ／＼信心^ヲ
オコシテ、彼御正体ヲ頸ニ懸^ケタテマツリテ、所々ヲ伺^ヒ行^ケ
トモ、サルヘキ靈地ナクシテ空^ク過^{ケル}程ニ、或夜念仏房ノ
夢ニ云ク、ヒンツラ結給^{ヘル}天女一人来^リ給^テ、念仏房ニ告云、
汝御正体ヲハ、是ヨリ西ノ方箸尾ト云^ル処ニ、昔ノ聖徳
太子宇賀神ヲ崇^メ給^{ヘル}古壘アリ。彼シコニ弁才天ヲ
勧請セリ。カヘ行^テ可崇^一ト^テ夢サメヌ。念仏房不思議ト

（45紙）

思^テ、ウスキリノマタ夜ヲコムル明ホノニ宿^ヲ出^テ、箸尾ノ里ヘ
尋来^{リテ}見ケレハ、誠ニ古塚ノ上新社立^{（×キ）}テ、参詣ノ

人市ヲナス。サテ念仏房社僧ニアヒテ、事ノ子細ヲ問ニ、
弁才天勧請ノ事・淨戒房社壇造替ノ事、具^{サニ}
カタリ侍リケリ。念仏房モ御正体ノ事・夢想ノアリサマ、
細ニカタリツ、共ニ難有^一由ヲ感歎ス。聽^テ此御正体ヲ
御社ニコメタテマツリテ、念仏房モ社頭ノ葱帽子ノ金物ナン
ト勧進^{シテ}シタテ、命ノウチハ常ニ参詣仕^{ツル}ヘキ由
申^テ、今ニ至^{マテ}モ歩^ヲハコヒ侍リケリ。

（46紙）

（白紙）

（注）
（准教授 日本中世史）
（続く）

- 注
- （1）拙稿「大福寺所蔵「瑞夢記」について」（『日本文学研究ジャーナル』一〇、二〇一九）。
 - （2）松尾葦江氏のご教示による。